発掘現場から⑭

茶畑六反田遺跡の調査から

ちゃばたろくたんだ

～土器に「大」の字？～

平安時代の茶畑六反田遺跡

今月は7月号に引き続き、茶畑六反田遺跡について紹介します。茶畑六反田遺跡は弥生時代（約2000年前）から江戸時代（約150年前）にかけての遺跡ですが、今回は平安時代（約1000年前）の調査成果について報告します。

今年の調査では、平安時代のものと思われる掘立柱建物跡がみつかりました。平成15年度の調査では、水田が営まれていたこともわかっています。水田跡には当時の人々の足跡と思われるものが残っていました。足跡には比較的大きなものと、小さなものがあったことから、大人と子どものものと思われます。家族総出で農作業を行っていたのでしょう。

このように、平安時代の茶畑六反田遺跡では、居住域の周辺に田園風景が広がっていた様子が想い描かれます。

調査地からは、平安時代の土器も数多く出土しています。日常的に使うお皿・甕（かめ）といった素焼きの土器などがみつかっています。これら出土した遺物で、今回の調査中にみつかった「大」と線刻された土器について紹介します。

「大」と線刻された土器

「大」と刻まれた土器は2点出土し、土師器（はじき）と呼ばれる素焼きの土器の内側に書かれていました。ほかに記号のようなものが刻まれた土器が1点出土しています。いずれも平安時代のお皿の破片です。破片であるため、「大」1文字のみなのか、2文字以上刻まれていたのかは不明です。

文字や記号が線刻された土器には、土器が焼き上がった後に刻むものと、土器を焼く前の粘土が生乾きの状態のときに刻むものがあります。今回みつかったものは土器を焼く前のもので、ヘラのような道具によって刻まれています。土器を焼いた後に刻まれたものは、土器を実際に使う人たち（消費者）によって刻まれることが多く、土器を焼く前のものは土器を作った職人（工人）たち、もしくは土器の生産を管理していた役人によって刻まれたと考えられています。

「大」と刻まれた土器片

記号のようなものが刻まれた土器

「大」のナゾ

では、なぜ土器に「大」と書いたのでしょうか？当時、複数の工人が土器を焼く場合、自分が作った器がどれかわかりやすいようにするために目印を刻むことがあったようです。その場合、「大」もその目印の1つとして使われることがあり、文字というより、記号的な意味合いが大きいようです。

名前や出身地など「大」の文字にゆかりがある工人が目印に利用したのでしょうか。

仮に「大」が文字として記されたものである場合は、役人によって刻まれたものである可能性が高いようです。

しかし、残念ながら「大」の本当の意味はわかっていません。「大」のナゾは深まるばかり…。みなさんも一緒に「大」のナゾを解いてみませんか？

鳥取県埋蔵文化財センター
名和調査事務所
〒689-3205
西伯郡大山町西坪字中松堀179-5
電話　0859-54-2671